

～東久邇宮盛厚殿下を称える会～ 東久邇宮記念会

[>>HOME<<](#)[東久邇宮記念賞の目的](#)[東久邇宮記念賞の由来](#)[東久邇宮盛厚殿下](#)[豊澤 豊雄](#)[東久邇宮記念賞](#)[東久邇文化褒賞](#)[お問い合わせ](#)

東久邇宮文化褒賞

東久邇宮文化褒賞 授与式 平成23年11月3日(文化の日)開催
申請(自薦・他薦)案内 / 授与式及び懇親会 開催要綱 (詳しくは[こちら](#))

民間最高の褒賞「東久邇宮文化褒賞」

終戦後の昭和21年、当時、衆議院議員だった私は、発明振興の為、発明振興議員連盟をつくって幹事長になり、尽くしていた。その時たまたま東久邇宮盛厚殿下にお目にかかった。

殿下の発明哲学は、「発明には上下の別はない。ノーベル賞を100とるよりも国民一人一人の小発明が大切だ。旨いミソ汁を考えた人には「文化勲章」を与えよ。」という思想だった。私は痛く感激した。この「文化勲章論」は、議員連盟75人の心を打った。

それから、殿下と私の2人三脚の運動が続いた。科学技術庁に社団法人発明学会を創ると、殿下はすぐ名誉総裁になってくれた。すると、このミソ汁文化勲章論は全国の発明界に広まった。それが発明人口600万人に広めてくれた。そして、日本は発明世界一になり、貧乏国日本はやがて経済大国になり、各国から妬まれるほどになった。ミソ汁発明家もだんだん成長して、国家褒章の黄綬褒章や紫綬褒章を賜るようになった。

私でさえ、藍綬褒章を賜った。それを機会に、私は科学技術庁の中に褒章クラブを創った。この褒章クラブは科学技術庁長官が顧問、私が幹事長となり、35年も続き、科学技術庁公認の団体となった。当時、この褒章クラブの450人が言ったのが、「勲章で最高なのが文化勲章である。それなら褒章で最高なのは文化褒章でなくてはならぬ。それを我々が創って与えよう。」と創ったのが始まりで、その第一号は日刊工業新聞の白井十四雄社長である。

その科学技術庁が今回、文部省と合併して無くなったので、褒章クラブも無くなった。ところが、褒章クラブの中心だった中小企業の社長連中が「あの文化褒章は文化勲章に匹敵する賞である。これは長く中小企業の社長に与えるべきだ。」と私のところに沢山書いてきた。そこで、私は百歳になったのを記念して、もう一働きとと思って、「文化褒賞クラブ」を復活したのである。今、この文化褒賞は恐ろしく中小企業の社長から切望されている。皆さんもぜひ受賞してもらいたい。

文化褒賞は、学術経験者によって選ばれ、東久邇宮殿下が授ける。その受賞の目安は、原則として次のいずれかに該当する人である。

- 1、文化的活動(芸術、美術、音楽等)に従事し、その振興に携わっていること。
- 2、文化的活動における社会的評価を受けていること。
- 3、世界の平和、文化的交流の為に、国際的活動に従事し、その振興に携わっていること。
- 4、人格的にも優れ、将来への展望を持ち、努力を怠らない者

自薦・他薦して沢山の方々に受賞してもらいたい。

東久邇宮記念会会長 豊澤豊雄

受賞規約、自薦・他薦規約

受賞規約は[こちら](#)(PDF)

自薦規約は[こちら](#)(PDF) / 他薦規約は[こちら](#)(PDF)

賞状 [クリック拡大](#)

東久邇宮文化褒賞 受賞申請書

東久邇宮記念会会長 豊澤豊雄様

東久邇宮文化褒賞の趣旨に賛同し、次の者を『東久邇宮文化褒賞』に推薦致します。
なお、貴会が受賞者に対し、「受賞者決定に関する通知」と「授与式に関するご案内」をお送りすることに対しては、私が責任を負うものとします。

平成 23 年 8 月 5 日

推薦人 ふりがな はらだ あき

氏名 原田 亜紀

〒

住所

電話

受賞者 ふりがな すだ やすお

氏名 隅田 泰生

住所

電話

受賞者の功績及び略歴（別紙不可・書ききれない場合は裏面へ）

資料の添付はご遠慮下さい。添付されましてもお返しできません。

功績：隅田氏は、1988 年以来抗血液凝固剤であるヘパリンなどの糖鎖研究を行ってきた。そして、ウイルスが細胞表層に存在する糖鎖を利用して細胞に感染する仕組みを逆手に取り、ウイルスが結合する糖鎖を固定化したナノ粒子を調製し、それをを用いて非常に希薄なウイルスを濃縮して遺伝子診断する超高感度ウイルス検出法を開発した。この技術によれば、インフルエンザの場合、現在一般的に使われている簡易診断キットの 50 万倍以上の感度があるため、感染初期の潜伏期でも、感染者の唾からウイルスを検出することができた。即ち、症状が現れないうちに、インフルエンザの罹患を察知し、早期に治療あるいは単に休養することによって、自身の健康管理や、インフルエンザの蔓延防止に役立つ技術を確立した。さらに最近では、唾 10ml に僅か 1 個という濃度のエイズウイルスを検出することに成功し、またヘルペス、ノロ、肝炎、デング熱等のウイルスにも展開している。本技術によって、ウイルス性感染症の早期診断が可能になることによって、医薬品の使用量削減と副作用の減少、それらの結果として医療費の大幅な削減、効果的な治療による死亡率の低下、入院期間の短縮、疾病にかかる期間の短縮による労働生産性の向上といった国民の厚生福祉に大きく貢献することは疑う余地がない。

略歴：隅田氏は、鹿児島大学教授でありながら、バイオベンチャーの(株)スティックスバイオテックの代表取締役でもある。

昭和 31 年 9 月 1 日 生誕（京都府）

昭和 59 年 3 月 工学博士（大阪大学大学院工学研究科）
昭和 59～60 年 日本学術振興会 奨励研究員；核酸塩基をふくむ機能性高分子について研究
昭和 60～平成 2 年 摂南大学薬学助手；機能性高分子、DDS、グルタミン酸レセプター、ヘパリンについて研究
昭和 63 年（7～11 月）、平成 1 年（7 月）、平成 2 年（7～8 月）、平成 7 年（7～8 月）Virginia Commonwealth University, Department of Chemistry および Department of Surgery, Visiting Scientist；ヘパリンについて研究
平成 2～6 年 大阪大学理学部 助手；平成 6～8 年 大阪大学理学部 講師；平成 8～14 年 大阪大学大学院理学研究科 助教授
平成 10～20 年 兵庫医科大学細菌学教室非常勤講師（兼任）
平成 14 年～現在 鹿児島大学大学院理工学研究科 教授
平成 14 年～現在 理化学研究所播磨研究所 連携研究員（兼任）
平成 15 年 10 月～平成 18 年 9 月 科学技術振興機構（JST）プレベンチャー事業シュガーチップ R & D プロジェクトリーダー（兼任）
平成 18 年 9 月～現在 株式会社スティックスバイオテック代表取締役（兼業）
ヘパリン、細菌細胞表層の高分子複合糖質、並びに糖鎖チップについて研究

東久通宮 文化褒賞

隅田泰生

貴方は多年にわたり政財官学ならびに
芸術文化福祉等の各分野において国際
協力や社会貢献に深く関わり指導教育
につくされた功績及び未来への夢は極めて
大きくよってその善行を褒賞せられた



平成二十三年十一月三日

東久通宮記念会

名誉総裁

東久通盛厚

東久通宮記念会

名誉会長

豊澤豊雄

